

第7回白馬村学校のあり方検討委員会 議事録

- 1 日時 令和3年11月1日(月)
開会 午後4時00分 閉会 午後4時52分
- 2 会場 白馬村役場 3階 302会議室
- 3 出席者 委員 花岡 秋好(地域住民代表)
委員 柏原 輝久(地域住民代表)
委員 徳武 信一(保護者代表)
委員 柏原 周平(保護者代表)
委員 高野美海子(保護者代表)
委員 吉沢 一夫(学校関係者)
委員 松下 設吉(学校関係者)
委員 浅原 昭久(学校関係者)
委員 清水 蛍(公募委員)
委員 塩島 弘之(学識経験者)
- 説明者等 教育課長 横川 辰彦
教育係長 中村 由加
- 4 協議 (1) 答申案草稿について
(2) 学校のあり方検討委員会の反省と要望

5 議事の概要

○開会(教育課長)

只今から第7回学校のあり方検討委員会を開会する。本日を最終としたい。委員長、ご挨拶とその後の進行をお願いします。

○委員長挨拶(塩島委員長)

こんにちは。今回が最終という話があったが、昨年の12月から7回委員会を開催している。途中、コロナ禍で何回か中断したこともあったが、皆様のご協力のおかげで答申書の形になってきている。前回の会議で答申書案について皆さんから出していただいた意見を基に、事務局で文章を作り直した。今日は委員の皆さんから最終的な点検をしてもらい、11月中旬には私と徳武副委員長で最終的な答申書を教育委員会に提出するということで進めていきたい。本日の会議の終了時間も17時30分を目安とする。

○報告

今までの経過報告及び今後の日程

(塩島委員長)

この1年間の検討の経過を振り返るとともに、今後の答申の取り扱い等について、事務局より説明してもらう。

(教育課長)

まず諮問の趣旨として、諮問書にあるように「教育委員会としては、施設の老朽化や少子化を踏まえて学校のあり方を研究し、施設の配置や規模などの具体的な実施計画を策定していく必要があると考えており、学校のあり方検討委員会の皆さんには小中学校が将来に渡って質の高い教育を維持していくために、児童生徒にとってどのような教育環境が必要かを総合的に議論し、望ましい学校のあり方について答申していただきたい」という趣旨である。明確にテーマを絞って諮問している訳ではなく、かなり幅広い形で諮問をさせていただいているので、答申書についても様々な見方からこんな意見もあるといったようにまとめている。

委員会の開催状況については、資料のとおりである。令和2年12月に第1回を開催し、本日が第7回目の開催となる。途中、3回ほど新型コロナウイルス感染症の流行により会議が開けず中断している。第1回から第3回までは、学校教育の現状について、それからテーマを絞って少子化のメリット・デメリットの項目出しをしている。第4回・第5回については、少人数でのテーマ別のディスカッションをしていただき、南小と北小の学校訪問も行った。それらを踏まえて、第6回で答申書に関する1回目の検討と、学校規模の比較検討ということで項目の整理等をしていただいた。本日の第7回は、第6回で出された意見を基に修正案を示しますので、最終ということでチェックしていただきたい。

最終的に後日、体裁等を整えた答申書の完成形について事務局から送付するので、書面協議ということで、よろしければお認めいただきたい。書面協議が終わり、11月中旬に教育委員会へ答申し、11月の定例教育委員会、12月議会等で答申内容について公表していく予定である。

今後の計画と答申の取り扱いについて、いただいた答申書については教育委員会で公表し、幅広い年代層からの意見聴取やシンポジウム等を行い、住民の皆さんの意見を集約していきたいと考える。その後に学校のあり方や学校の適正規模について基本方針を作っていく。ここ最近で参考になるのが山ノ内町の例である。山ノ内町は平成24年から議論をはじめ、令和8年度に小学校を統合する流れになっている。先に行っている市町村の例も参考にしたい。

(塩島委員長) ここまでの説明でご意見や質問はあるか。

・特になし

○協議

(1) 答申案草稿について

(塩島委員長)

答申案について、大きな段落ごとに確認をしていきたいと思う。事務局より修正箇所等につい

て説明してもらい、必要とあれば文章を読み上げてもらって、委員の皆さんから意見をいただきたい。

(教育係長)

答申書案の「はじめに」をご覧いただきたい。修正箇所は赤字で示した2箇所である。4つのポイントの内、内容が似ている2つのポイントについて違いが分かるように記載した方が良いという意見を受けて修正している。1つ目は「個性を生かし、行き届いた指導で子供たちの教育と学力向上に力を発揮する学校」として、学習面での環境について挙げているのに対し、2つ目は「学校施設の整備など、より魅力的で快適な教育環境を提供する学校」として、学校施設の整備といったハード面について挙げた記載にしている。

(塩島委員長)

意見はあるか。

- ・意見なし

(教育係長)

「はじめに」のところで、これからの望ましい学校の姿を考える上での具体的な方向性や課題として、3点の項目を挙げているが、この3項目に共通する修正として、3項目に1から3まで番号をふった。また、各項目に見出しを追加し、項目での統一見解としての意見を記載している。

「1. 特色ある魅力的な教育」では、見出しとして「白馬村の特色を生かした教育で、大きな視野を持ち地域を誇りと思う児童生徒を育てる教育が必要である。」と記載している。内容についてはほぼ変更はない。修正箇所は1点、「ICT 機材」という文言を「ICT」に修正した。「機材=箱だけ」というイメージから「機材」という文言を削除した。

(塩島委員長)

意見はあるか。

- ・特になし

(教育係長)

「2. 地域力を生かした教育」については、内容についても修正しているので、全文を読み上げる。見出しは「学校を核とした交流に白馬村の優れた地域人材を登用することで、地域が子どもを育てる環境を作るべきである。」としている。(全文を読み上げる。)

ここでの修正点は2つ。前段の赤字修正部分は、前回にA委員より出された「地域に学校がなくなると子育て世代が流出し、地域の過疎化が進む可能性がある」という意見を反映させ、「また、近年は白馬村に新しく移住してきた方も増え、地域とのつながりは隣近所の付き合いよりも、学校を核にして保護者同士の交流が主な家庭も多くなってきている。委員の中からは、地域に学校がなくなると子育て世代が流出し、地域の過疎化が進む可能性があるといった意見も出されている。」という文言を追記した。後段の赤字修正部分は、B委員より出された意見で「人材育成よりも人材登用・発掘といった文言の方が良い」ということを踏まえて、「白馬村の優れた地

域人材を幅広く登用し開かれた学校運営で、学校が地域交流の核となることが求められている。」と修正した。

(塩島委員長)

意見はあるか。

・特になし

(教育係長)

「3. 学校施設のありかた」の見出しは、「村の長期的な計画のもとに、魅力的な教育方針をたてて学校を設置すべきである。」としている。内容については一部の文言を変えている。前回会議のC委員の指摘から、2段目の「言うのが」という文言を追加している。また、下段の赤字修正部分については、D委員の「長期的な村の施策を踏まえ、村の人口をどのようにしていくのかという見通しを持って施設を作るか考えるべき」という意見を踏まえて、「また、今後数十年使用する施設であることから、白馬村全体の長期的な計画の中で判断していただきたいと言う意見も出されている。」というように修正している。

(塩島委員長)

意見はあるか。

(E委員)

南小は避難所としても重要であるといった話もこれまでにあったと思うが、学校の避難所としての役割に関する記載がどこにもない。自分としては、入れた方が良く思うがいかがか。

(F委員)

自分個人としては必要だと感じていたが、教育委員会に聞いたところ、南小学校はもともと避難所に指定されていないようだ。現在の場所が危険箇所にあることから、災害時の避難場所とはなっていない。

(E委員)

私は、南小の場所を変えて、避難所の機能をもつ学校が村の南側にあったら良いと思う。

(教育課長)

これから新しい施設を建設するにあたっては、避難所の機能をもつ学校というのも考えられる。普通はどここの市町村も学校が避難所になるが、白馬村の地域防災計画の中では、3校とも避難所にはなっていない。そのような現状からあえてこの答申書では避難所としての記載はしていない。

(E委員)

わかりました。

(教育係長)

・では、「最後に」をご覧いただきたい。ここでは大幅に内容を変えているので、全文を読み上げたい。(全文を読み上げる)

内容を2つに分け、見出しも2つにした。前段の部分は「子供の視線に立ち、居心地の良い安心な学校を目指すべきである。」として、前回のE委員の意見をここに盛り込んだ。このE委員の意見を反映した内容については、具体的な方向性や課題として挙げた3点に追加して、4点目として挙げることも考えたが、「ありのままの自分が認められて安心して育つことができる学校」というのは、少子化等に関わらずいつの時代にも求められる普遍的な理念であることから、「最後に」で盛り込んだ方が構成的にも良いと判断し、ここで盛り込むこととした。

また、後段の「幅広い層の意見を集約し、魅力的な白馬村となる計画を立てるべきである。」については、白馬インターナショナルスクールの開校や観光的な要素等からこのまま急激に子どもの数が減るといっても言えない部分があること、また、F委員からの「人口が減るのは仕方ないにしても、魅力的な村づくりをして人口が増える手立てとしてもらいたい」という願いもあったので、そのような点を反映させた内容として記載している。

(塩島委員長)

意見はあるか。

・意見なし

全体を通して意見はあるか

・意見なし

では、答申書については以上としたい。大きな修正はないので、最終的な答申書を事務局から送付し、最後は書面協議とするのでお願いします。

(2) 学校のあり方検討委員会の反省と要望

(塩島委員長)

この検討委員会は、今日を持って最後となる。最後に皆さんから反省や要望等を出していただきたい。お1人ずつで、感想でも良いし、これからの学校教育に望むことでも良い。教育長に答申書を渡すにあたり、答申書にはないが口頭にて伝えることがあれば出していただきたい。

(G委員)

私の場合、令和3年度の第3回からの参加になる。意見を言うどころか勉強するつもりで参加させていただいた。5回目くらいからやっと検討委員会の論点が分かってきた感じがする。どういう学校を作るべきかと言った時に、最終的にはE委員から出された「子供たち目線」や「子供たちが生き生きとする教育」が一番重要のように感じた。

(H委員)

私の場合も途中からの参加だが、子供たちが学校でのびのびと生活できれば良いと思っている。自分は白馬の生まれだからかもしれないが、コミュニティの核としての機能を学校に強く求

めすぎないで、大人は大人として住んでいる地域と関わっていくことも大事ではないかと考える。地域とのつながりを学校だけに頼らない方が良いように思う。

(C 委員)

子供の数が減っていく状況や、現在のコロナ禍で経済の見通しも立たない状況の中で判断はしづらいつ感じている。コロナが収まれば良いが、この先もどうなるか分からない。でも、考えるべきことはしっかり考えていかなくてはならない。この委員会で話し合ってきたが、その他の皆さんの意見も知りたいし色々な声を聞きたいと思う。また、村としての教育政策や方針を決める上で、この委員会で意見が大事な役割を担っていると思うので、どのような方向性になるのか見ていく必要があると感じている。

(D 委員)

普段は目先のことに追われてしまう中で、将来を見通して学校をどうすべきなのかということを考える良い機会を与えていただいた。「学校を作るならば20年後、30年後も使える施設であるべき」という意見を取り挙げていただいたが、20年後、30年後を考えた時に、学校も今みたいな学校ではなく、どんどん様変わりしていきだろうと感じる。現在はGIGAスクールが始まったばかりだが、学校も日本全体で大きく変わっていく時代になった時に、どういう風になっていくのかはよく考えた方が良く感じた。

(B 委員)

今まで色々な地域で教員をしてきたが、この白馬はグローバルや多様性という面では県下でも他にはない地域であると感じている。現在はコロナ禍であるが、時代の曲がり角だと思っていて、距離はそれほど離れてなくても、立ち位置によって見える景色が全然違う状況にある。白馬の場合は曲がり角にいる方が沢山いて、以前の景色も見えるが、曲がり角の先の新しい景色も見える方も沢山いると思う。他の地域は昔のことをどうやって維持するかということに精一杯なケースが多い。そんなことから、白馬の特色を生かした魅力ある学校が出来て、将来の景色につながる子供たちが育まれていけば良いと思っている。

(A 委員)

この委員会に参加できたことを嬉しく思っている。色々な見地や切り口で、自分が見えてなかったことを知ることができたり、未来について考えてワクワクすることができた。未来について皆で考えて、意見を出せたことを誇りに思う。ハード面である学校施設の快適な環境についての要望であるが、もしも全く新しい施設を建てるのであれば、白馬に合った最適な教育環境ということで、夏に暑く冬に寒いという施設は作らないようにしてもらえればと思う。先ほど各委員からの「違う景色」と「学校も様変わりしてくる」といったことにもワクワクした。新しい物を建てるのであれば、他にはない学校施設を見たいと思う。

(I 委員)

東京から白馬に引っ越してきて、自然も素晴らしいが地域の人たちも温かくて、すごく魅力的

な村だと感じている。この会に出席させていただいて、また更に白馬の魅力を感じる機会をいただいた。白馬に来て、自分にはないもので必要なものが英語だと思っている。子供がハーフの友達の家遊びに行き馴染んでいる一方で、自分はそのお母さんとうまくコミュニケーションをとることができない場面に直面したので、子供には基本的な英会話ができるくらいに育ててほしいと思い、英語学習について提案させていただいた。この会では幅広く大きなテーマで提案しているので、そこからさらに具体的な良い方向へ進んでほしいし、魅力ある学校や、村全体が魅力ある村になってほしいと思う。

(E 委員)

この会でここにいる皆さんとお話ができたと嬉しく思っている。皆さんの温かい気持ちに触れて、何度かウルっときたことがあり、とても良いところに住まわせてもらっていると感じている。要望としては、先ほど山ノ内町の話が出たが、もっと近いところで池田町の教育長の「子どもがまんなか」という考え方が自分は大好きであり、池田町は会染地区の子どもの数が減っているが統合しないと断言している、是非その辺も参考にさせていただけたらと思う。

(徳武副委員長)

不慣れな役をいただき、塩島委員長におんぶに抱っこで全てやっていただいた感じがある。最初は何を話すべき会議なのかすごく悩んだ。いきなり学校について全体で話してくださいと言われても難しく、思うようにできなかったという印象がある。最終的には色々な話し合いをさせていただき、色々な検討ができたので良かったと思うが、最初から検討内容をもう少し明確にしてもらえたら、もっと突っ込んだ話し合いができたように思う。

(教育係長)

自分は異動でこの4月から検討委員会に携わらせていただいた。皆さんに活発な議論をしていただくために、もっと資料を工夫したり、分かりやすい説明ができれば良かったという反省がある。これで答申をいただくことになるが、今度は教育委員会として、皆さんからいただいた答申を基に、具体的な道筋を建てて良い形になるように進めていかななくてはならない。

(塩島委員長)

「これからの少子化の時代に向けた望ましい学校のあり方」というテーマが大きすぎて、どこから手を付けて良いかわからなかったが、実際に始まると、皆さんから色々な悩みを出していただいたり、こんな学校が良いというイメージを語っていただいた。率直で非常に忌憚のない意見が多かったので、すごいという思いで聞かせていただいた。皆さんの意見を上手く汲み取ることができなかったのも申し訳ないと思うが、一つの形として提言できるのは非常にありがたい。教育委員会でもまた基本方針を作ることなので、是非参考にさせていただきたい。

○まとめの挨拶

(教育課長)

昨年の12月3日から始まり、ほぼ1年間をかけて検討してきた。コロナ禍ということで特に学校の先生方には、対応に追われるお忙しい中でもお集まりいただき、熱心に議論していただいたことにお礼申し上げます。両小学校は老朽化しており、統合という話は何年も前から出ていることである。ただ、教育委員会としては、村の財政的な側面だけを切り取って統合に賛成していくことは、好ましくないという考えである。教育委員会は村部局から独立した組織であり、教育基本方針を立てた上で学校について財政当局と話し合っていくべきであろうという趣旨のもと皆さんに集まってもらい、学校のあり方や白馬村の進むべき道について話し合っていた。

答申書としてまとめたが、今度は教育課でどう進めていくか考えていくことになる。今後、アンケートやシンポジウム等を行うことになるかと思うが、皆さんにはこの委員会のよしみでお力添えやアドバイスをいただきたい。一朝一夕で片付く問題ではなく数年かかると思うが、是非ご協力をお願いします。1年間、本当にありがとうございました。

(塩島委員長)

閉会を教育課長をお願いします。

(教育課長)

長きに渡り検討いただいた学校のあり方検討委員会だが、皆さんにお集まりいただくのはこれが最後となる。ありがとうございました。

以上を持って、第7回白馬村学校のあり方検討委員会を閉会とする。

○閉 会